

富山和彦著「会社は頭から腐る」ダイヤモンド社 2007年7月26日刊を読む

「いかに考え抜いてつくり上げても不確実性をぬぐえない戦略に対し、経営として何をすべきだろうか。それは、フィード・バックである。たえず修正していくプロセスが重視されるのだ。

P(プラン・計画)→D(ドゥ・実行)→C(チェック・検証)→A(アクション・修正)というマネジメント・プロセスにおいて、戦略がないと仮説なき戦いになってしまう。

まずは仮説を置き、ある前提条件や条件設定のときの最善策を立てることで、結果に対してフィード・バックしていく。

このプロセスを経ていかないと結果的に数字が上がらなかつたり、赤字になったりしたときに、何が間違っていたのかがわからなくなってしまう。」

P.46

「戦略力とはより合理的な戦略仮説を構築する知的能力と、それを実行しながら的確かつ迅速にPDCAを回す組織能力の掛け算である。」

P.48

「実は企業の強さを分けるのはPDCAの回転力の差なのである。初期的な戦略施策のよし悪しなどよりも、この違いの方がはるかに大きい。」

P.49

— 2008年12月5日記 —

(林 明夫)